

2020年への

障害者スポーツの 拠点を目指して

布石

東京オリンピック・パラリンピック大会まで、あと2年半。事前キャンプ誘致に向け、体育施設のバリアフリー化やスポーツ交流事業などを実施し、市をあげて受け入れ環境の整備に力を入れています。

田川市総合体育館、新生。

平成29年4月、東京パラリンピック大会に出場する「ドイツ車いすフュンシング選手団」の事前キャンプを田川市で実施することについて、ドイツ車いすスポーツ連盟と仮調印を交わしました。本調印に向けた同連盟との協議の中で、本市がクリアしなければならないさまざまな課題を確認。そのひとつが、拠点となる市総合体育館をバリアフリー化することでした。市は、平成29年11月から改修工



①



③



④



⑤



②

- ①日本代表の池透暢選手(右)と栗松聖矢選手(左)が練習全体のフォロー役を務めました
- ②ドン!ガチン!車いす同士で激しくぶつかり合うラグビーは迫力満点
- ③ボールをキャッチして疾走。スピードとコントロールが肝心です
- ④試合中は車体の故障が頻りに発生。常に車体をメンテナンスするエンジニアがバックアップします
- ⑤マンツーマンで評価や改善点を伝えるケビンヘッドコーチ

当事者の目線で検証

市体育協会は、改修状況の検証や障害者スポーツの普及推進を図るべく、親交が深い福岡の車いすラグビーチーム「Fukuoka Dandelion」に利用を打診。バリアフリー化直後の3月31日に、同チームの選手10人が体育館を訪れました。この日は、通常の練習ではなく、車いすラグビー日本代表チームのヘッドコーチであるケビン・オアーさんを招いた強化練習。選手たちは、コーチから基礎練習や戦略などの指導を受けながら練習に励みました。

世界を視野に

2020年に向けた本市の取り組みは、ドイツ国内で注目を浴びています。8月16日〜26日にドイツのハンブルグで開催される「車

いすバスケットボール世界大会」には、二場公人市長が招待されており、スポーツ分野の関係者に向けて市の取り組みをプレゼンテーションする予定です。

こうした結びつきから、同大会のCEOでドイツ車いすスポーツ連盟の理事であるアンソニー・カールフェルトさんが、5月14日に本市を視察。障害者スポーツの国際交流や世界大会の開催など、東京オリンピック・パラリンピック大会以降の関係強化を視野に、市長や関係者と意見を交わしました。

体育館を視察したアンソニーさんは「国際的な大会に対応できるほど配慮が行き届いています。さまざまなスポーツの関係者に、田川市の実情を報告したい」と手ごた

えを語りました。「2020年は通過点に過ぎない。本市とドイツが抱えている共通の思いは、未来への大きな推進力になります。」

自分の可能性を 見つけられるのは自分だけ

掘 貴志 選手



日々目標を設定し、ひとつひとつ達成できるよう練習に励んでいます。目指すは日本代表選手。自分の可能性を信じて前進を続けます。障害があっても、きちんと現実と向き合い、外に出ていくことが大切。スポーツに限らず、いろいろなことに挑戦することで未来が開けると考えています。

市総合体育館の 設備を紹介

障害の有無に関わらず、誰もが使いやすい施設を目指してさまざまな改修を実施。その一部を写真とともに紹介します。今後もエレベーターの設置や駐車場の改修などのバリアフリー化に取り組みます。



▲大体育室の壁面に設置した冷暖房設備の輻射パネルで、快適な環境を保ちます



▲車いすで使用できる多目的トイレを増設。海外からの来場者を想定し、5か国語の音声案内を設置



▲玄関の扉を手動から自動に変え、段差をなくしてスムーズな通行を可能にしました